

3 素材の良さを120%引き出す

果物や花、アクセサリなど、どんなものにも命があると思いつきながら撮影し、人物を撮るときと同じように大切に扱っていきましょう。このように愛情を持ちながら撮ることで、自然とそのものをきれいに写したいという気持ちが芽生えてくるはず。そして、1mmでも動かすと全く違う表情を見せてくれますので、どの角度がその素材が一番魅力的に写すことができるのかをよく観察し、仕上がりの写真をしっかりイメージしながら撮ることが大切です。



EOS-1D Mark II ・ EF100mm F2.8 マクロ USM ・ F2.8 ・ 1/60秒 ・ ISO400



EOS-1D Mark II ・ EF28-70mm F2.8 IS USM ・ F2.8 ・ 1/60秒 ・ ISO400

4 撮りたいイメージでレンズを選ぶ

テーブルフォトにおいて、とくに雑貨などを撮影する場合、マクロレンズで近付いて撮影する方が多いようです。もちろん、マクロレンズは、花や料理撮影の際にも、とても活躍しますが、大切なのは何をどう表現したいかということ。たとえば、人間の視界に近い画角を得られる標準レンズを使って、背景を生かした撮影をすることで、ストーリー性やメッセージ性を強めることができます。また、28-70mmのようなズームレンズならば、引いたり寄ったりと、臨機応変に画角が変えられるので、撮りたいイメージにより近い構図や画角を探ることができます。上の写真も、さまざまな画角で撮影しながら、一部分だけを切り取るのではなく、かつ、間延びせずちょうど良い引き具合を探して、気持ちのよい画面作りを目指しました。

1 見せたいものを絞みましょう

一番、メインとして写したいものは何か？ ブックでも雑貨でも、どんなものを撮影するにしても大切なことです。とくに浅い被写界深度の場合は、背景にさまざまなものがボケて写ってしまうと、ごちゃごちゃした仕上がりになってしまうため、気をつけたいポイント。フレームの細部にまで気を配り、写してもあまり意味のないものは取り除くように心がけましょう。また、小さなゴミなどもマクロレンズでは鮮明に写ってしまうため、要注意です。



EOS-1D Mark II ・ EF28-70mm F2.8 IS USM ・ F5.6 ・ 1/125秒 ・ ISO400

2 やわらかい光を作り出す

「光を作る」と考えると難しいことのように感じるかもしれませんが、このようなテーブルフォトの撮影では、いかに優しい陰影を作るかを考えるとわかりやすいのでは？ または、影をなくすとも考えても良いでしょう。そう考えると、光が強すぎてコントラストが強くなってしまいう順光での撮影では、影を抑えるのにレフ板が必要になってくるのです。



レフ板の使い方について

上の写真のように、レフ板がない場合はスケッチブックやアルミホイルなどで十分レフ板の代わりになります。また、レース生地を使うと、窓から入ってくる光をより優しい光にかえてくれる効果があります。

EOS-1Ds Mark III ・ EF50mm F1.8 II ・ F2.8 ・ 1/60秒 ・ ISO200



EOS 半蔵 誌上講座
須藤夕子先生の
テーブルフォト講座
さまざまな被写体の
組み合わせを楽しむ

今号のテーマ別講座は、「須藤夕子先生のテーブルフォト講座」。テーブルフォトを指す写真は幅広く、料理やお菓子などの食べ物ばかりではありません。たとえばテーブルウェアと、意外なものを組み合わせて自分らしいテーブルフォトを目指しましょう。

EOS学園東京校講師
須藤夕子 Yuko Sudo

1974年神奈川県出身。3年間の大手広告代理店などでのOLから転身した、異色の写真家。現在は、フリーランスとして雑誌やCDジャケット、広告など俳優やアーティストたちの人物ポートレート撮影を中心に活動中。また、「笑顔泥棒」としてNY、パリ、マイアミ、沖縄など世界中で子供達の笑顔を撮り続けている。

【講座情報】

「テーブルフォト入門」(全3回)
10/18(日)開講、10/25(日)、11/8(日)
「女性のための写真講座」子供ポートレート
10/31(土)

※詳細内容は情報別冊をご覧ください。

